

英語科学習指導案

日 時 平成21年11月17日(火) 6校時
 学 級 紫波町立紫波第一中学校
 2年4組38名
 場 所 2年4組教室
 授業者 根反 冬実 マシュー・ナナリー

1 単元 Unit 6 The Story of *Silent Night* (NEW HORIZON ENGLISH COURSE BOOK II 東京書籍)

2 単元について

(1) 教材について

本単元では、クリスマスを共通テーマにしており、クリスマスイブのブラウン家の部屋の情景、クリスマス・プレゼントの1つである本についての対話、そして、「きよしこの夜」誕生秘話という題材の中で、There is(are)構文の肯定文、疑問文とその応答文、動名詞を目的とする文、動名詞を主語とする英文の形・意味・用法を学ぶ。

基礎・基本の定着をめざして、これらの表現の「使用場面」を以下のように提示できるものとする。

ア. There is(are)～を使って

- ① 物事の有無について、自分の知りえた情報を相手に伝える場面
- ② 物事の有無をたずねたり、答えたりする場面

イ. 動名詞を使って

- ① 自分の好きなことについて相手に伝える場面
- ② 物事についての自分の感想を相手に伝える場面

このように、言語の使用場面と役割を明確にすることによって、生徒たちは自分や身の周りのことに関連した情報を付け加えて、より具体的に相手に伝えることができるようになると思われる。

(2) 生徒について

2年4組の生徒に行った英語に関わるアンケート結果は以下の通りである。

	問	答	男子	女子
1	英語の学習の中で聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの中であなたが好きなものはどれですか(複数回答可)	聞くこと	47%	72%
		読むこと	26%	39%
		話すこと	42%	11%
		書くこと	26%	33%
2	英語で話すことについて ① 授業で習った表現を使って友だちやALTと話してみたいと思いますか	ぜひ話してみたい	15%	0%
		少しなら話してみたい	53%	44%
		あまりそう思わない	32%	56%
		全く思わない	0%	0%
	② 教科書での対話練習やあるテーマについて会話をする際、友達やALT、先	すすんで参加している	14%	11%
		一応参加している	54%	83%

	生と会話にすすんで参加していますか	あまり参加していない	32%	6%
		ほとんど参加していない	0%	0%
③	話す活動は、どれくらい行うことができますか	モデルとなる表現に、知っている表現をいつも加えて話すようにしている	10%	5%
		モデルとなる表現に、知っている表現をときどき加えて話すようにしている	27%	33%
		モデルとなる表現を使って話している	42%	56%
		モデルとなる表現をなかなか話せない	21%	6%
3	これまでに教科書で習った表現を使い、与えられたテーマや場面に沿って自分のことをどれくらい書くことができますか	4,5文程度書くことができる	11%	11%
		3文までは書くことができる	32%	50%
		1文は書くことができる	31%	34%
		習った文がなかなか使えない	26%	5%

この結果から、本校英語科で生徒に身に付けさせたい表現力のうち「話す」ことに関してはモデルとなる表現に関連したことがらを付け加えて話すようにしている生徒は男子が27%(5名)、女子33%(5名)であるが、男子の42%(7名)と女子の53%(9名)はまだ何らかの会話文を暗唱して、発表する域を脱していないこと、男子の21%(3名)と女子の6%(1名)はモデルとなる表現を暗唱することが困難であるということがわかる。

「書く」ことに関して見ると、男子の43%(8名)と女子の61%(10名)が3文以上の関連した英文を書くことができ、男子の31%(5名)と女子の34%(6名)が1文は書くことができる。しかし、男子の26%(4名)と女子の5%(1名)は習った文がなかなか使えないと答えている。

授業の様子からは、英語好きな生徒と英語が苦手な生徒との差が激しいが、男子の数名が授業をリードしており、発言も活発である。女子は全体での発言には消極的だが、ペアやグループ活動では積極的であり、しっかり話したり書いたりすることができる生徒が多い。

身に付けさせたい表現力である「話す」ことに関しては、ペアでの発表には慣れており、発表会に対して積極的である。2学年になってからは特に「はっきりと、みんなに聞こえる声で」

「本文を少し変えて話してみる」「自然な会話にする」などを観点に入れ、自己評価と他者評価を行ってきている。お互いの表現や異なった考え等を自然に受け入れたり、よりおもしろい表現を求めて話し合ったりする姿も見られる。

「書く」ことに関して見ると、数文から成る関連する英文を書く場合に、辞書を使わずに一気に書き始める生徒が数名おり、その生徒が周辺の生徒を支援して活動している場面が多く見られる。和英辞書を持っていないため、語彙を増やすことが課題である。また、文法面で「be動詞とほかの動詞を同時に使用してしまう」「語群が与えられても、語順がわからない」等のつまずきがよく見られ、既習事項が十分に身に付いているとはいえない。

(3) 研究に関わって

本校英語科で高めたい表現力は

与えられたテーマで、自らの思い・考えや事実・情報など伝えたい事項を、適切に書いたり、話したりする

として捉えている。

本単元における文法事項はThere is(are)～.の肯定文、疑問文、応答文、目的や主語となる動名詞である。まず、基礎・基本を定着させるために、教科書本文におけるそれらの表現の使用場面を生徒に意識させ、使用語句の習得と内容理解、それぞれの文法事項を含む英文の形・意味・用法を理解させたい。

その後、英語科で求める表現力を付けさせるための言語活動「There is(are)～.や既習文法を用いての言語活動」(本時)を集中的に行う。基礎・基本的な表現の形・意味・用法を復習し、

ペア・ワークやグループ・ワークを経ながら、目的に応じてThere is(are)構文とその他の表現をたくさん使うことができるよう、生徒の興味や関心のあるトピックを提示して言語活動を行わせたい。

3 単元の目標

- (1) There is(are)構文（肯定文）の形・意味・用法を理解し、表現できる。
- (2) There is(are)構文（疑問文と応答）の形・意味・用法を理解し、それを用いて簡単な対話ができる。
- (3) 物語を読んで、登場人物の心情などを読み取ることができる。
- (4) 物語を読んで、場面の变化や登場人物の心情などを読み取り、それを表すように音読することができる。
- (5) 動名詞を目的とする文の形・意味・用法を理解し、表現できる。
- (6) 動名詞を主語とする文の形・意味・用法を理解し、表現できる。

4 指導計画と評価計画（6時間扱い）

時間	学習課題・ 学習内容	コミュニケーションへの関心・意欲・ 態度	表現の能力	理解の能力	言語や文化についての知識・理解	評価方法
1	物の有無について相手に教えよう	教師のクリスマスに関する話を静かに聞こうとしている	There is(are)構文を正しく使って話すことができる		アメリカのクリスマスの過ごし方を知る	ワークシート
2	物の有無について問答しよう	ペアワークにおいて必要に応じて協力し合っている	There is(are)構文（疑問文と応答）を正しく使って対話することができる	相手の話を正しく理解することができる	単語の発音の違いなど語句や文を正しく発音する知識を身に付けている	ワークシート
3	クリスマスにまつわる物語を読み取ろう 1	必要に応じて辞書などを活用している	正しい強勢、イントネーション、区切りなどを用いて音読できる	書かれた内容について正しく読み取ることができる	目的語としての動名詞の用法を理解している。	ワークシート
4	クリスマスにまつわる物語を読み取ろう 2	必要に応じて辞書などを活用している	正しい強勢、イントネーション、区切りなどを用いて音読できる	書かれた内容について正しく読み取ることができる	主語としての動名詞の用法を理解している	ワークシート
5	「きよしこの夜」誕生秘話を音読しよう	「読むこと」の言語活動に積極的に取り組んでいる	聞き手に十分聞こえる音量で場面や心情に応じた音読ができる		場面や状況による強勢やイントネーションの違いを理解している。	教師、ALTとの音読テスト
6 本 時	「There is(are)～を使って自分の考えを表現しよう」	・既習の表現を駆使して言語活動に積極的に取り組んでいる	・There is(are)構文を使って書いたり話したりすることができる。	・相手の話す内容を理解することができる。	・There is(are)構文の形・意味・用法を理解している	・発言の観察 ・ワークシートでの自己評価

5 本時について

(1) 目標

- ア. 自分の考えをThere is(are)構文を含んだ3文で書くことができる。
- イ. 自分の考えをThere is(are)構文を含んだ3文で話すことができる。

(2) 本時の指導の構想

本時はUnit6のまとめの時間であり、「生徒に身に付けさせたい表現力を高めるための授業」として設定した。英語科で求める「話す」「書く」力につなげられるよう、生徒の関心・意欲を高めながら、ALTとのT.T.の特色を生かしてさまざまな活動を行わせ、There is(are)構文の定着を狙いたい。

本時の指導の流れは以下の通りである。

ア 導入〔聞く、書く、話す〕・・・ペアワーク

- ・ There is(are)構文の復習をクイズWhat am I?で行う。
- ・ ペアにカードを渡し、書いてある場所が答えとなるクイズWhat am I?のヒントをThere is(are)構文を使って作らせる。
- ・ 班内でクイズを出し合う。

イ 展開

① 表現場面1〔書く〕・・・個人ワーク

- ・ 修学旅行の班別研修先リストから、自分が班で行きたい場所について、英文3文以上を書く。

② 表現場面2〔話す〕・・・班内での個人発表

- ・ 自分の考えを班内で発表する。班長がすすめる。
- ・ 班でどこへ行きたいか、最終的にまとめる。

ウ 終結

自己評価で本時の学習課題の達成を確認する。

(3) 本時の展開

段階	学習項目	学習活動	時間	指導上の留意点
導入	1. 挨拶 2. クイズ What am I?	<ul style="list-style-type: none"> ・There is(are)構文の意味を考え、クイズの答えを考える。 ・There is(are)構文などを使って、クイズWhat am I?のヒント文を作る。 	12	<ul style="list-style-type: none"> ・教師とALTがクイズを出題する。 ・ペアに1枚ずつ異なるカードを渡し、クイズのヒント文を作らせる。 ・There is(are)構文を使ってヒント文を2文以上作ることを指示する。 ・書く時間と暗唱時間を各3分ずつ与える。 ・班内でクイズを出し合う。 ・制限時間を設ける。(3分間) □「聴き取る力」を高める手立て ・出題者ははっきりと、大きな声で発表させる。 ・出題を聞くときは顔を上げさせる。
展開	4. 学習課題の確認	There is(are) ～. を使って自分の考えを表現しよう		
	5. 表現活動(書く)	<ul style="list-style-type: none"> ・There is(are)構文とその他の表現を使って書く。 	15	<ul style="list-style-type: none"> ・修学旅行の班別研修先リストから、行きたい場所についてThere is(are)構文を含んだ3文以上からなる文を書かせる。 □「確かに伝達する力」を高める手立て ★テーマを与える ★パターンを示す ★音読練習をする ■評価場面Ⅰ：自分の考えをThere is(are)構文を含んだ3文以上からなる文で書くことができるか。
	6. 表現活動(話す)	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の書いた英文を発表する。 	12	<ul style="list-style-type: none"> ・班内で1人1人の意見を述べさせる。 ・班長に進めさせ、聞く側はリアクションを返させる。 ■評価場面Ⅱ：There is(are)構文を含んだ3文以上からなる文で自分の考えを話すことができるか。
	7. 表現活動(話す)	<ul style="list-style-type: none"> ・班長は班としての考えを発表する。 	9	<ul style="list-style-type: none"> □「確かに伝達する力」を高める手立て ★テーマを与える ★パターンを示す
終	8. 学習の確認 9. 挨拶	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートで学習課題の達成を自己評価する。 	2	

